

10月28日（月）

神様の見えるみわざ

聖書朗読 ルカ 13：18～21

神の国を何に比べましょう。パン種のようなものです。 ルカ 13：20

「パン」というものは、私にとってちょっと謎です。小麦粉、水、パン種（イースト菌）がどのようなものかはわかっていますし、パン種なしではパン生地が膨らまないで、パン種がカギでることも知っています。でも、パンが謎だというのは、生地が膨らむ科学的な工程を私が実際には見ることができないからです。パンの材料を混ぜ合わせ、生地を冷蔵庫で寝かせます。すると、パン生地が魔法のように膨らむのです。膨らんだ生地は、たとえ私が実際には見ることができなくても、パン種がそうしたのだということを証明しています。

パンの作り方の工程は、2000年間ほとんど変わっていません。ですから、今日の聖句にある質問を出されたときに、イエス様は神の国とパン種を比べられたのでしょう。「神の国を何に比べましょう。」 私たちが覚えるべきことは、たとえ目に見えなくても、神様が私たちの生活において働かれているということです。そしてまた、たとえ私たちには、そのように思えなくても、神様は他の人の生活でも働いてくださっているかもしれないのです。ですから、「目に見えないことは、それが起こっていないということです」と言う過ちを犯してはいけません。「パンの教え」から学びましょう。目で見ること以上のことが、そこで進んでいるのです。神様がかわってくださっているなら、私たちは他に何も望むことなどありません。

讃美歌 第二篇 191

祈り 親愛なる主よ。あなたが私の人生において、なさってくださるみわざをほめたたえます。そしてまた、他の人たちに対してもなさってくださったみわざを感謝します。目で見ることではなくても、あなたがお働きになってくださることを覚えることができますように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ブライアン・シモンズ
ワシントン州 バンクーバー

今日の力

2013年10月28日～11月3日

翻訳 村越克子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月29日(火)

誰が戻って来たと思う？

聖書朗読 ルカ 15：11～24

この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。
ルカ 15：24

娘が玄関の前で迷子の猫を見つけました。娘は私たちの許可なく、猫に餌をやり、そして起こるべきことが起きました。そうです、猫が家の中に入ってきたのです。トム（猫の名前）はわが家でくつろぎ、まもなく、彼のグレーの毛並みやゴロゴロ喉をならすしぐさが、私たちの生活の重要な一部になりました。でも、トムは野良猫の生活を止めたわけではありませんでした。彼は数週間いなくなり、私たちがもう彼は永久に戻ってはこないと思ったときに、引っかき傷だらけでガリガリに痩せて、ひょっこり戻ってきたりもしました。

放蕩息子、そして私たちの多くは、自分の中にトムのある部分を持っています。神様の家族の一員であることの心地良さを享受する一方で、ときどき、自分の中にある性質のせいでトラブルとなり、霊的に、ときには身体的にも傷つく結果になります。トムがたとえ何度いなくなっても、家族の誰かが「ねえ、誰が戻ってきたと思う？」と叫んだときに、喜びの日になるのです。そして、誰かがトムのためにボウルにミルクを注ぎ、他の誰かが温かいお風呂を用意します。

たとえ私たちが何度迷子になろうとも、神様のウエルカムマットはいつも用意されていることを、聖書は語っています。誰かが「誰が帰って来たと思う？」と叫んだときの、天国における喜びを想像してみてください。

讃美歌 245

祈り 主よ。私たちの罪深い性質は、あなたの愛から愚かなさまよいへと私たちを引き出します。あなたの愛が、戻って来た愚かな子どもを快く迎えてくださるほど偉大であることを感謝します。
イエス様の御名において。アーメン。

マデリン・ピーターソン
ネブラスカ州 ヘイスティングズ

10月30日(水)

いただくという恵みを学び直す

聖書朗読 ルカ 18：15～17

あなたには、何かもらったものでないものがあるのですか。

Iコリント 4：7

私たちには孫がいます。なんという喜びでしょう！ 幼い子どもという贈り物よりも大きな喜びがあるでしょうか。大人に包装した何かを渡すと、明らかに困惑した様子をするものです。「まあ、こんなことしてくださなくてもよかったのに」などと言います。でも、子どもは違います。贈り物を手渡し終わる前に、子どもは包み紙をむしり取るかのようにして、開き始めます。

イエス様のみもとに連れて来られた幼子たちを弟子たちが追い払おうとしたのは、別に意地悪でしたわけではありませんでした。弟子たちは、当時の一般的な文化的習慣としてそうしたのです。というのは、当時は、宗教的指導者にとって子どもは取るに足らない存在だったからです。弟子たちは、自分たちの指導者を取るに足らない邪魔なものから守ろうとしたのです。しかし、幼子はイエス様の御目にとっては、取るに足らないものではありませんでした。イエス様が、子どもたちには弟子たちが学ぶべきことがある言われたとき、弟子たちは当惑しました。その学ぶべきこととは、子どもたちは贈り物を受け取る時に手放しに喜ぶということです。

自分自身を乗り越えましょう。喜びましょう！ 神様のご支配のときがきたのです。神様が私たちを創造されたのですから、私たちは神様が望まれるように人生を生きることができます。神の国のドアは、イエス様の犠牲の血によって開け放たれています。それ以上に偉大な贈り物はありません。前に進みましょう。贈り物の包みを思い切って開き、包みをビリビリ破きましょう。

讃美歌 130

祈り いのちを与えてくださるお方。あなたの御手から受け取るすべてのものに感謝をあらわし、あなたに喜んでいただけますように。イエス様の貴い血によって可能となった、天国というあなたからの贈り物を開くとき、幼子の手放しの喜びを学び直せますように。
イエス様の御名において。アーメン。

アール・D・ラベンダー
テネシー州 ブレントウッド

10月31日(木)

もうひとつの機会

聖書朗読 ルカ 18:18~30

私が手紙を書いたのは、あなたがたがすべてのことにおいて従順であるかどうかを
ためすためであったのです。 IIコリント 2:9

「ケーキを食べたらケーキを持っていることはできない」(ケーキは食べたらなくなるので、矛盾する2つのことを同時に実現することは不可能だという意味)ということわざがあります。不幸なことに、あるお金持ちの役人が永遠のいのちが欲しいと思いましたが、彼はそれ以上にお金持ちでいたいと思いました。『しもべは、ふたりの主人に使えることはできません。・・・あなたがたは、神にも仕え、また富にも使えるということはできません。』(ルカ16:13)と、イエス様はわかりやすく話してくださいました。イエス様には、小さいときからすべての戒めに従ってきたこの若者を引き離しているものが、何であるかがわかっていらっしやいました。彼は相反する2つの世界を持つことを望んでいたのです。

マタイの福音書25:31~46の審判の場面において、永遠のいのちを与えられた者たちは、自分がしていたことを神様がみこころに留めてくださっていたとは知りませんでした。顔をそむけられた人たちは、自分たちがしてきたことをリストし始めました。世俗的な人たちは、私たちに従順を求められる神様のみこころを悟らず、自分の信用を得ようとして、これまでしてきた良いことをすべて勘定に入れる傾向があります。

神様から私たちを引き離すものは、私たちの主人となります。イエス様が「私と一緒に来なさい」とおっしゃるとき、イエス様は重要な選択、「a fork in the road」(道の中にささったフォーク。重要な決断を迫られ、人生の岐路に立たされている状態のこと。特に2つの選択肢の内どちらか一方を選ばなければならないような状況)、右か左かの選択を提示されているのです。一度に両方には行くことはできません。イエス様の犠牲的な愛は、みもとへと私たちを呼んでくださいます。それ以外の道に進むことに、真の愛はありません。

讃美歌 336

祈り 親愛なる主よ。あなたをほめたたえます。すべてのことにおいて、あなたに従順でありますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ゲイネル・トーマス

ニューメキシコ州 ポーテイルズ

11月1日(金)

内なる闇

聖書朗読 ヨハネ 1:1~8

この方にはいのちがあった。このいのちは人の光だった。 ヨハネ 1:4

エレベーターの乗り込んだまさにその瞬間、エレベーターが故障しました。ドアが閉まり、室内灯が消え、階数を表示するパネルのボタンがすべて消えました。私はエレベーターという小部屋に閉じ込められてしまったのです。非常灯のかすかな明かり以外、あたりは真っ暗でした。

私はパニックの中で考えました。ここにどれくらい居ることになるのかしら？ 脱出方法はある？ 何時間も閉じ込められるの？ 最終的に発見されたとき、私はどうなっているのかしら？ 私はドアをどんどん叩き、助けを叫び、外の動きに耳をすましました。しかし、なんの反応もありませんでした。

いつかはここから出られることはわかっている(実際30分後に出られました)、狭くてほとんど真っ暗な空間に閉じ込められることは、神様から引き離されているような感じを与えました。私は発見されることと、神様はもちろんのこと人とのつながりをどれほど望んだことでしょう。

誰かが電源を再起動してくれ、エレベーターのドアが開きました。解放されて、その間にいろいろ考えたことを思い返し、人生において私たちがはまってしまう罠はたくさんあると思いました。エレベーターの中に閉じ込められることは、人生における罠のひとつの象徴的な出来事になり得ます。もしかしたら今日、私たちは捕らえられるかもしれません。神様はすべてをご存知であり、私たちを愛してくださっています。神様はあらゆる御力をお持ちであり、私たちのことを思ってくださいる愛は、私たちが人生の罠のことを心配する気持ちよりも、はるかに大きいということを覚えましょう。

讃美歌 第二編 21

祈り 主よ。私たちが光の中を歩むことができるように本当に助けてください。
イエス様の御名において。アーメン。

トニー・アッシュ

テキサス州 アビリン

10月2日（土）

癒しの池

聖書朗読 ヨハネ 5：1～9

イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい」

ヨハネ 5：8

ベテスダ（慈悲の家）と呼ばれる池は神聖な場所でした。ベテスダは、ときどき泡立ち流れが止まる地下水でした。おそらく天使を癒す証しなのでしょうか？ 神様の御力にすぐにお頼りできるとき、誤った希望に執着する人もいます。

誰かが自分を池の中に入れてくれることを望んでいる足なえに、イエス様は説教をされなかったことに気づきましたか？ 説教をする時間もありましたし、説教ではなくあわれみを示される時間もありました。

イエス様は「よくなりたいか」とお聞きになりましたが、これは少し妙な質問ですよね。ベテスダの池のそばで伏せているのですから、よくなりたいと思っていることは明らかなのではないのでしょうか？ でも、病気の人みんながよくなりたいと思っているわけではないのかもしれない。

生まれたときから24歳まで目が見えなかった友人が、手術によって視力が与えられました。最初、彼は周りの世界の認識の仕方を学び直さなければならないブレッシャーから、もう1度目が見えなくなりたいと言いました。

38年間、歩けなかった人が、もし治ったら、施しを乞う以外の生き方を見つけなければなりません。霊的に変わることを望まない人たちもいます。彼らは自分たちの型にはまった生活に満足しています。正しい考えを持っている人なら、身体的にも霊的にも治りたいと思わないことがあるのでしょうか？

讃美歌 398

祈り お父様。私たちを清め、私たちを全きものにしてください。

イエス様の御名において。アーメン。

スティーヴン・クラーク・ゴード
カリフォルニア州 ブライズ

11月3日（日）

これがそれです

聖書朗読 ヨハネ 6：52～59

「このことであなたがたはつまづくのか。」

ヨハネ 6：61

私の好きな標識（サイン）は「標識を探しているんですか？ これがそれですよ」というものです。多くの人が神様からのしるし（サイン）を望んでいます。彼らは、創造主からの耳で聞くことのできる確信や、触れることのできる証拠が欲しいと思っています。

ヨハネは福音書の中で7つのしるしを記録しています。ヨハネはそれらのしるしを書き残す目的は、イエス様がなされた奇跡をリストにすることにあるのではなく、私たちがイエス・キリストを信じるためであることを明らかにしています。しるしのうちの2つが、6章に書かれています。イエス様は5000人の人に食物をお与えになり、そして、人々は満腹の間は一、イエス様のことを「預言者」と呼びました（6：14）。次の日、イエス様は再び彼らに食物を与えられましたが、それは触れることができる食物ではありませんでした。イエス様は人々に「いのちのパン」をお与えになりました。これは天国からのしるしです。人々は不満を言い、イエス様が言われたことを鼻であしらいました。

いったい何が起きたと言うのでしょうか？ 24時間以前には、人々はイエス様を来るべきお方としてたたえました。イエス様が魚とパンを提供している間は、彼らにとってイエス様は偉大な方です。しかし、ひとかけらの天国は拒否するのです。彼らは天国を逃しました。私たちはどうでしょう？ しるしを探していますか？ これがそれです。イエス・キリストこそがそれであり、いのちのパンなのです。イエス様に心を開き、みことばをいただきましょう。

聖歌 210

祈り 親愛なる主よ。俗世界のせいであなたのしるしを見落としてしまうとき、私たちを赦してください。私たちが必要としている証拠のすべてが、まさにここにあるということを理解できるように助けてください。あなたが与えてくださいますいのちとみことばに感謝します。今日、私たちを祝福してください。

イエス様の御名において。アーメン。

ジョン・バーネット
テネシー州 ナッシュビル